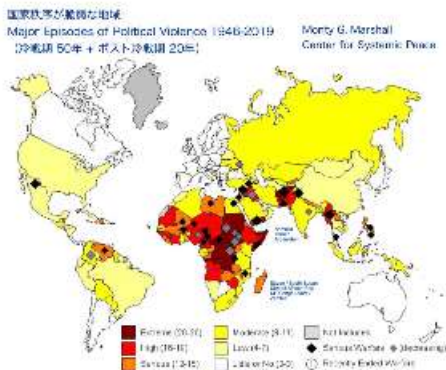


2024年度チャレンジ講座(第1回)を実施しました

5月15日(水曜日)、今年度最初のチャレンジ講座を実施しました。今回は、経済学部の木村雄一先生に「なぜ民主的で繁栄する地域と紛争が多く停滞する地域があるのか? : 歴史制度分析と歴史学」と題して講義していただきました。



自由な経済活動が保障される「良い」経済制度は、武力紛争を抑制する国家秩序や、法の支配や分散した権力構造を持つ「良い」政治制度によって形成される、との説明がありました。そのように「良い」政治制度は国家権力と民衆の利害が一致するために、民衆の厚生向上のために経済制度を形成するという好循環もたらしめます。その一方、社会集団間の利害を一致させることのない政治制度の下では、格差社会の中で激しい対立が起こり、紛争の多発や市場経済が拡大しないという悪循環が起こるというお話がありました。

その具体例として北アメリカやラテンアメリカの歴史と現状の説明がありました。以上のことはデータから説明されるということで、「旧植民地国では、500年前の人口密度が高いほど現在の所得水準が低い」、「白人入植者の比率が低いほど現在の所得水準が低い」ことが説明されました。たいへん衝撃的なデータであり、搾取のための制度、階層間利害摩擦の大きい制度形成がなされたためであると分かりました。



今回は19の高校から304名の高校生が受講しました。感想の一部を紹介します。

- 少し難しかったけど学校でやらないようなことを学べて楽しかった。経済を歴史的な観点からみるのは初めてだったけど歴史の中で制度が形成されていったことが分かり、納得した。
- 繁栄する地域と停滞する地域が存在する理由は利害の一致が起きて良い制度体制ができている国と市場経済が拡大し、商業勢力が政治力を奪取する制度が形成されている国があるからだと分かりました。今回の講義で今まで以上に歴史に興味が持てそうです。
- 私は今までまだ経済学は計算ばかりの学問だと思っていましたが、今回の講義を受けて、経済学には幅広い範囲の知識が必要で、ある課題について考えるときは一つの角度ではなく、さまざまな角度から考えることが必要だと気づくことができました。
- 自分が大分大学に進学した際にこのような興味深い学習ができると、より進学をしたいという思いが高まった。
- マーカーを引きながら資料をわかりやすく説明してくれたのが良いと思いました。

1800頃から 独立戦争、国家形成期

自由貿易勢力：イギリス帝国の軍事・外交支援を受けて、スペイン系クリオーリョ商人勢力(この時点で中間層)がスペインとの武力闘争に勝利し、独立する。

先住民エリート階層から大統領が多く選出される場合もある(メキシコ)が、

・市場原理主義的な制度設計：教会の権力基盤である大土地を没収するだけでなく、先住民の共有地も解体。

→ 先住民の失地

市場経済フランス革命直後の自由経済思想の影響もある。

(ブルジョワ階層の利益。ラテンアメリカでは革命勢力・中間層ではない。ブルジョワ=大土地所有の支配階層)

・この時点の初期条件：土地・資産所有が集中 + 市場が経済急拡大する条件変化

→ 先住民の失地、資産所有・政治権力アクセスの集中が、さらに酷くなる。

※今回の記事(講義概要)は、安心院高校が担当しました。